なみきぐち 並木口遺跡

(大口市針牟田)

位置と環境

遺跡は大口市の南西部に位置し、近くには川内川 支流の針持川が流れる丘陵の先端部である。標高は 約177mである。調査対象部分は、現在は畑地とし て利用されており、畑の開墾時に削平をうけている。 (第1図)

調査の経緯

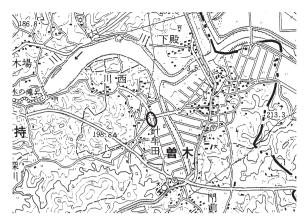
大口市から菱刈町・栗野町に至る広域営農団地農 道整備事業計画に伴い,平成6年度に大口市教育委 員会が調査主体となり,県教育委員会の協力を得て 確認調査を実施し,その後平成7年度に本調査 (670㎡)を実施した。

遺構と遺物

調査の結果,遺構としては,溝状遺構を1条,土 坑を2基,ピット3個を検出した。遺構に伴う遺物 はピットより縄文土器数点が出土したのみであるた め,時代の特定まで至らなかった(第2図)。

遺物としては、縄文時代の土器及び石器が出土した。土器については、縄文時代前期に相当する轟式 土器と思われるものや、縄文時代後期に相当する南 福寺式・出水式系土器、市来式土器、丸尾式土器、 西平式土器、そしてこれまで県内でもあまり出土例 のない磨消縄文系土器等が出土した(第3図)。

また石器については、その大部分が石鏃であり、 その他に石錐、石斧、敲石、磨石等が出土した(第



第1図 並木口遺跡の位置

4図)。総体的にはかなりの量の石鏃および石鏃未製品、剝片、石核等が出土しており、石材も日東産の黒曜石のみならず、県内産の上牛鼻産、桑木津留産の黒曜石も多く含まれた。また、他県産のおそらく大分県姫島産のものと思われる黒曜石剝片も出土している。

特徴

これまで県内でも出土例がほとんどない磨消縄文 系土器が数多く出土している。

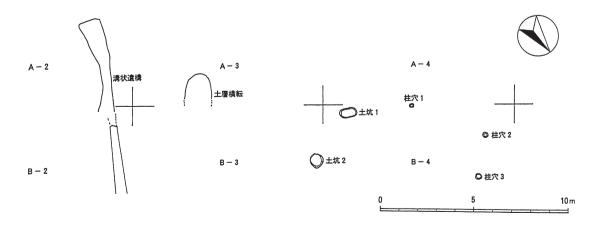
資料の所在

出土遺物は、大口市教育委員会で保管・展示されている。

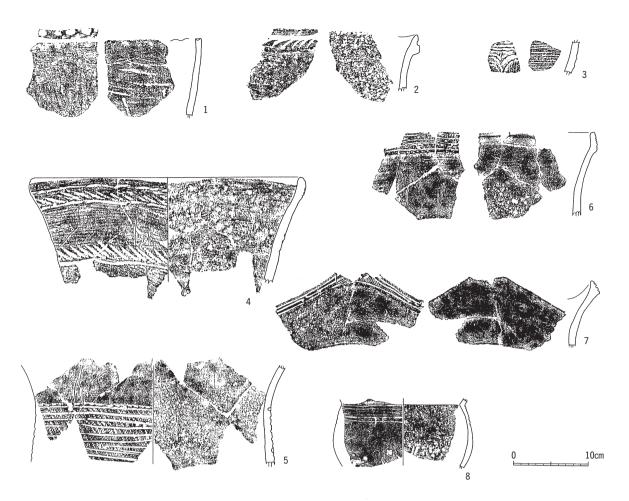
参考文献

大口市教育委員会1996「並木口遺跡」『大口市埋蔵 文化財発掘調査報告書』18

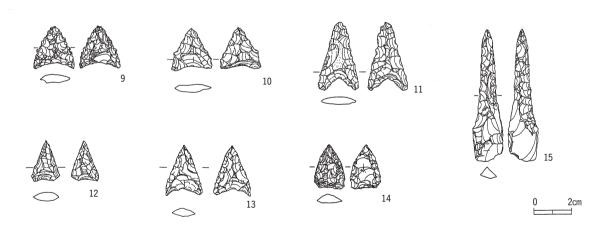
(柿川幸司)



第2図 並木口遺跡遺構配置図



第3図 縄文時代出土土器



第4図 縄文時代出土石器